

巻頭の辞

神戸市立病院紀要第 61 巻が刊行の運びとなりました。例年のごとく、本紀要におきまして多くの論文や学術活動の記録が掲載されております。神戸市民病院群の医療者が日々の医療業務の実践にとどまらず論文や学会発表をとおしてその成果を世に発信していく姿勢にあらためて敬意を表すものであります。

私ども神戸市民病院群の役割は医療により市民の生命と健康を守ることにより、確立した従前の医療を適切により高いレベルで遂行することが第一の責務ですが、同時に医療をさらに前に進めていく使命も有していると考えます。そのためには研究的志向を合わせもつことが必要となります。大学のような研究機関ではありませんので臨床的研究が中心ですが、症例の豊富な市民病院群ですので、シーズには事欠かないと思います。また臨床試験や様々な治験にかかわることも大切な役割です。

一つ強調させていただきたいことがあります。それは学会発表をすればそれをできるだけ論文化することに努めていただきたいということです。学会発表に比してはるかに多くの労力が求められますが、経験を積めばそのハードルは下がるものです。上司の立場の方には若い医療者に対しては臨床上の指導とともにアカデミックマインドの醸成にも引き続き尽力されますようお願い申し上げます。

昨今、わが国の論文発表の質と量の低下が指摘されています。このようななかで本紀要は神戸市民病院群の医療者が高度専門医療を行っているとともに新しい医療を拓くという高い志を掲げて日々の臨床に邁進していることを世に示すものであります。

本紀要が皆様方の日々の診療・看護そして研究にいささかでも資することを祈念する次第です。

神戸市立医療センター西市民病院

院長 有井 滋 樹